

第8回下水道における新型コロナウイルスに関する調査検討委員会 議 事 要 旨

日時：令和6年3月21日（木） 10時00分～12時00分

場所：（公財）日本下水道新技術機構 会議室

○調査を通して多くのデータが集まったことは非常に喜ばしいことである。同じ場所での調査を継続して積み重ねると、感染者数と下水中のウイルス濃度の関係について、処理場ごとに特有の違いや、5類移行前後の変化などがより明確に見えてくる。

○「連携・協力」の観点で最も重要なのは調査実施体制の調整である。採水・輸送というと簡単に聞こえるが結構ハードルが高い。色々なやり方があるが、調査の立上げ時には非常に重要である。

○阻害物質による結果のばらつきについてはまだ明らかになっていない。その影響の大きさは処理場規模による可能性がある。特に、異なる処理場の横断的な比較の際には留意する必要がある。

○このガイドライン及び報告書が、最終的に感染症の流行対策等に活用されることが重要である。

○このガイドラインや報告書の様に、まとめて発信していくことが非常に大事である。また、非常に参考になるデータであると思う。新たに下水サーベイランスを行う際の参考になるものにしていただきたい。

○下水サーベイランスに関する技術や知見は随分発達・進化している。一方で、下水の調査結果をわかりやすく伝えるのは非常に難しい。下水の特性による結果のばらつきも含め、調査内容や意義を一般の市民、或いは関係部局に対して広く周知するには多くの時間を要する。今後、多くの方が知恵を働かせ、情報交換しながら上手く伝えていく努力が必要である。

○下水サーベイランスが、当初は想像の世界だったところから、現実に使ってもらえるところまできたと感じている。さらに向上するためには、特にデータの使い方について考える必要がある。得た結果をオープンデータ化し、誰でも利用できるものにするすることで、より役に立つものになる。

以上